

印旛普及だより

第 31 号

〒285-0026 佐倉市鍋木仲田町8-1 TEL : 043-483-1124 FAX : 043-485-9502
ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-inba/inba/mokuji/index.html>
発行：印旛農業事務所改良普及課・印旛地域農林業振興普及協議会

産地育成による

地域農業の活性化をめざして

春ニンジン生産拡大と産地育成を進めています

(1) 導入の背景

八街市・富里市は野菜の大産地ですが、近年は、野菜経営全般での収益の低下が問題となっています。

このような中、あらたに春ニンジンが導入され、作付面積が増加してきています。

そこで、春ニンジンの産地化を図り、野菜経営の収益向上と安定化を目指して、普及活動を展開してきました。

(2) 栽培技術の確立・普及と経営への定着

栽培技術の交流、改善を図るとともに、生産者の組織化につながるため、市、農協とも連携して、試験展示圃の設置、栽培講習会や現地検討会を開催してきました。

一方で、合理的な輪作による

経営を確立するため、春ニンジンを導入した経営モデルを提案し、春ニンジン導入の定着を推進しました。

これらの活動により、本年は栽培面積約30ha、生産者が100名以上に拡大しました。

(3) 産地体制の確立と拡大をめざして

春ニンジンの栽培面積が拡大する中で、千葉みらい農協（八街市）、富里市農協、丸朝農協それぞれに春ニンジンの組織が設立されました。

また、千葉みらい農協、丸朝農協では共同集出荷施設が春ニンジンに対応して再整備され、産地の核となっています。

さらに、各農協とも、春ニンジン栽培を振興し、平成25年度には、春夏ニンジンの指定産地

となりました。

今後も、関係機関と一体となり、栽培技術の改善による収量・品質の向上、べたがけマルチ栽培の導入等による省力化の推進、合理的な輪作体系を確立し、連作障害の回避と収益の確保による野菜経営の安定化を図っていきます。

また、生産組織の活動を支援し、産地としての生産・販売体制を一層強化するとともに、栽培面積と生産者のさらなる拡大をめざします。



ハウス春ニンジンの収穫

◆作物◆

飼料用米の本作化で、安定した収入の確保を！

食生活の変化による米消費量の減少や過剰作付による在庫量の増加が、米価下落の一因です。経営所得安定対策等に加えて、農業収入を確保しましょう。

Q…飼料用米の品種は？

A…主食用品種と多収性専用品種（知事特認品種のアキヒカリ・初星を含む）のどちらでも取組可能です。

Q…取組方法は？

A…生産・乾燥・調製まで主食用米と一緒に管理して契約数量（基準単収×面積）を飼料用米として出荷する「一括管理」方式、又は、生産ほ場を特定してその全収穫量を飼料用米として出荷する「区分管理」方式を選択できます。

Q…飼料用米の助成制度は？

A…取組方法により助成額が変

わります。

平成27年産の助成額は、「一括管理」では10a当たり8万円、「区分管理」では収量に応じて同5.5〜10.5万円です。

「区分管理」の場合、多収性専用品種を選択すれば、さらに同1.2万円加算されます。

Q…区分管理の条件は？

A…次のいずれかを満たす必要があります。①多収性専用品種、

②主食用米とは異なる主食用品種（例…主食用米はコシヒカリ、飼料用米はちば28号）、③主食用米と同一品種だが、生産・出荷段階に明らかな差異がある（例…飼料用米のみ籾出荷）

Q…どんな手続きが必要？

A…生産年の6月末日までに飼料用米の取組計画書や区分管理計画書、交付金申請書類などを地域農業再生協議会又は関東農政局千葉支局に提出します。

その他詳細は、最寄りの市町農政担当課又は印旛農業事務所043(483)1129まで！

飼料用米の取組による収入額試算：経営規模2haの場合（平成28年産）

主食用米のみ	一括管理（主食用品種）	区分管理（主食用品種） ちば28号等	区分管理（専用品種） 夢あおば・アキヒカリ等																																																										
<table border="1"> <tr><td>飼料用米販売金額</td><td>4.3万円</td></tr> <tr><td>戦略作物助成</td><td>64.0万円</td></tr> <tr><td>産地交付金</td><td>2.8万円</td></tr> <tr><td>生産性向上</td><td>2.8万円</td></tr> <tr><td>県助成</td><td>1.2万円</td></tr> <tr><td>主食用米販売金額</td><td>185.4万円</td></tr> </table>	飼料用米販売金額	4.3万円	戦略作物助成	64.0万円	産地交付金	2.8万円	生産性向上	2.8万円	県助成	1.2万円	主食用米販売金額	185.4万円	<table border="1"> <tr><td>飼料用米販売金額</td><td>4.8万円</td></tr> <tr><td>戦略作物助成</td><td>72.0万円</td></tr> <tr><td>産地交付金</td><td>2.8万円</td></tr> <tr><td>生産性向上</td><td>2.8万円</td></tr> <tr><td>県助成</td><td>1.2万円</td></tr> <tr><td>主食用米販売金額</td><td>111.2万円</td></tr> <tr><td>米の直接支払交付金</td><td>8.3万円</td></tr> </table>	飼料用米販売金額	4.8万円	戦略作物助成	72.0万円	産地交付金	2.8万円	生産性向上	2.8万円	県助成	1.2万円	主食用米販売金額	111.2万円	米の直接支払交付金	8.3万円	<table border="1"> <tr><td>飼料用米販売金額</td><td>4.8万円</td></tr> <tr><td>戦略作物助成</td><td>72.0万円</td></tr> <tr><td>産地交付金</td><td>2.8万円</td></tr> <tr><td>生産性向上</td><td>2.8万円</td></tr> <tr><td>専用品種</td><td>9.6万円</td></tr> <tr><td>県助成</td><td>1.2万円</td></tr> <tr><td>主食用米販売金額</td><td>111.2万円</td></tr> <tr><td>米の直接支払交付金</td><td>8.3万円</td></tr> </table>	飼料用米販売金額	4.8万円	戦略作物助成	72.0万円	産地交付金	2.8万円	生産性向上	2.8万円	専用品種	9.6万円	県助成	1.2万円	主食用米販売金額	111.2万円	米の直接支払交付金	8.3万円	<table border="1"> <tr><td>飼料用米販売金額</td><td>4.8万円</td></tr> <tr><td>戦略作物助成</td><td>72.0万円</td></tr> <tr><td>産地交付金</td><td>2.8万円</td></tr> <tr><td>生産性向上</td><td>2.8万円</td></tr> <tr><td>専用品種</td><td>9.6万円</td></tr> <tr><td>県助成</td><td>1.2万円</td></tr> <tr><td>主食用米販売金額</td><td>111.2万円</td></tr> <tr><td>米の直接支払交付金</td><td>8.3万円</td></tr> </table>	飼料用米販売金額	4.8万円	戦略作物助成	72.0万円	産地交付金	2.8万円	生産性向上	2.8万円	専用品種	9.6万円	県助成	1.2万円	主食用米販売金額	111.2万円	米の直接支払交付金	8.3万円
飼料用米販売金額	4.3万円																																																												
戦略作物助成	64.0万円																																																												
産地交付金	2.8万円																																																												
生産性向上	2.8万円																																																												
県助成	1.2万円																																																												
主食用米販売金額	185.4万円																																																												
飼料用米販売金額	4.8万円																																																												
戦略作物助成	72.0万円																																																												
産地交付金	2.8万円																																																												
生産性向上	2.8万円																																																												
県助成	1.2万円																																																												
主食用米販売金額	111.2万円																																																												
米の直接支払交付金	8.3万円																																																												
飼料用米販売金額	4.8万円																																																												
戦略作物助成	72.0万円																																																												
産地交付金	2.8万円																																																												
生産性向上	2.8万円																																																												
専用品種	9.6万円																																																												
県助成	1.2万円																																																												
主食用米販売金額	111.2万円																																																												
米の直接支払交付金	8.3万円																																																												
飼料用米販売金額	4.8万円																																																												
戦略作物助成	72.0万円																																																												
産地交付金	2.8万円																																																												
生産性向上	2.8万円																																																												
専用品種	9.6万円																																																												
県助成	1.2万円																																																												
主食用米販売金額	111.2万円																																																												
米の直接支払交付金	8.3万円																																																												
主食用米 2.0ha (180俵)	主食用米 1.2ha (108俵) 飼料用米 0.8ha (72俵)	主食用米 1.2ha (108俵) 飼料用米 0.8ha (80俵)	主食用米 1.2ha (108俵) 飼料用米 0.8ha (80俵)																																																										
試算計 ➡ 185.4万円①	191.8万円②	200.3万円③	209.9万円④																																																										
	収入額の差 ➡ +6.4万円②-①	+14.9万円③-①	+24.5万円④-①																																																										

- 試算の条件
- 前提条件：生産調整の達成
 - 経営規模（田） 2.0ha
 - 生産数量目標（主食用米） 1.2ha
 - 生産調整面積（飼料用米） 0.8ha
 - 米の直接支払交付金 7,500円/10a（自家消費用10aは対象外）
 - 戦略作物助成 55,000円/10a～105,000円/10a（収量に応じて単価変動）
 - 産地交付金 生産性向上 3,500円/10a（県全体の計画面積を超えた場合には減額）、多収性専用品種 12,000円/10a
 - 県助成（生産支援） 1,500円/10a
 - 主食用米の販売価格 10,300円/俵（コシヒカリ）
 - 飼料用米の販売価格 600円/俵
 - 10a当たり基準収量 9俵（区分管理は1俵増収）

その他の加算措置：（国）耕畜運搬助成 13,000円/10a、（県）団地化助成 4,000円/10a、市町村助成 など

※予算成立前のため、交付金・補助金の単価は、今後変更となる可能性があります

◆野菜◆

春夏ニンジン トンネル栽培のポイント

春夏ニンジンの生育期は低温期から高温期に移り変わるため、栽培管理方法が秋冬ニンジンと異なります。八街市・富里市で導入されている、マルチ不使用のトンネル栽培をご紹介します。

○播種準備

ほ場選定は輪作を考慮し、センチュウ類の被害が心配される場合は前年秋頃にくん蒸剤等で土壌消毒します。播種時期は収穫時期を考慮して決めます(表)。

○播種作業

トンネルパイプの幅に合わせてベツド幅を設定し、株間6cm前後、条間15cmで播種深度1〜1.5cmを目安とします。土壌水分を十分確保して播

播種時期	収穫時期
1/下旬～2月	5/下旬～6/中旬
3/月上旬	6/下旬

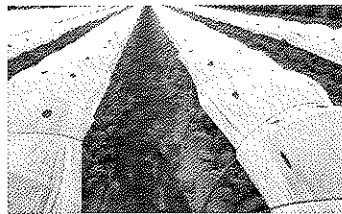
種し、直後に古農ビ等でトンネル被覆し、密閉します。

○温度計を利用しましょう

生育適温は20℃前後です。初期は特に保温に努めますが、日中にトンネル内温度が35℃を超える場合は裾上げ換気します(2月下旬以降、初めは風下側から4m間隔で5cm程上げる)。夜温確保のため、午後3時頃にはトンネルを閉めます。

○収穫までの管理

生育中期以降は換気時間・場所を徐々に増やし、4月下旬以降の曇天日に除去します。



トンネル除去直前に換気を強めている様子

トンネル除去直後、黒葉枯病やヒョウタンゾウムシ類等の防除のため、薬剤散布を行います。しみ症や虫害を抑制するため、6月中に適期収穫しましょう。

◆担い手◆

農業経営体育成 セミナー生募集

新しく農業を始めたみなさんを対象に、同世代のネットワークづくりと、農業の基礎的・専門的な知識・技術を段階的に身につけることを目的に印旛農業事務所では、3年間の農業経営体育成セミナーを開催しています。

○対象者

新規に就農した青年農業者でおおむね35歳までが対象です。

○内容

農業経営に必要な基本的知識・技術を習得できます。土づくり、病虫害防除、農業機械及び農業経営等に関する座学や、先進農家・農業関連産業への視察を行っています。また、同世代の仲間の輪が広がります。

○開催場所

5月下旬に開催予定の開講式をスタートに、半日

1日で講義や視察を年10回程度、通年開催しています。

1年目の基本研修、2年目の専門研修、3年目の総合研修の3年間のコース制です。今年度は、65名が受講しています。

○参加経費

無料です。ただし、視察先によっては視察料や昼食代がかかります。

○連絡先

興味・関心のある方は、改良普及課まで御連絡ください。

043(483)1124まで



指導農業士経営の視察研修

**新しい指導農業者・
農業者が認証されました**

平成27年度農業者等認証式典が11月20日に千葉県庁で開催され、当農業事務所管内では指導農業者3名・農業者11名が認証されました。

農業者は、地域農業の推進者として活躍される青年農業者を、指導農業者は、地域農業のリーダーとして青年農業者育成に尽力される方を知事が認証するものです。

指導農業者

○押尾 美恵子 氏 (佐倉市)



施設花き(シクラメン他)。独自に育成した

「房総メラコ」の販売等、特色のある経営を実践しています。

○山崎 操 氏 (佐倉市)



施設花き(ユリ)。直売を主体にし、ギフト

やフラワーアレンジメント等附加值をつけて販売しています。

○大塚 春美 氏 (白井市)



果樹(ナシ)。

高度な栽培技術と観察の徹底により、生産コストの低減を実現しています。

農業者

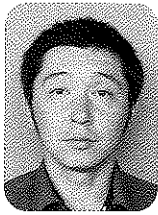
○清宮 直子 氏 (佐倉市)



水稲主体の経営。対面販売により消費者との

信頼関係を築くことで、販売の安定化を実現しています。

○大島 貴仁 氏 (佐倉市)



ナシ+水稲の経営。ほぼ全量が直売で、中間

マージンを抑えることで収益の確保を実現しています。

○山田 健 氏 (佐倉市)



ユリ専作。厳しい選別と大規模化で、実需者

から高い評価を受けています。

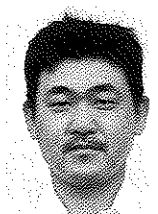
○石井 洋一 氏 (佐倉市)



花壇苗を中心とした経営。作

業の効率化によって、大量生産とコストダウンを可能にしています。

○水谷 健二 氏 (印西市)



ナシを中心とした果樹経営。

新しい技術を積極的に導入し、早期成園化と省力的な栽培を目指しています。

○橋本 哲弥 氏 (白井市)



ナシ専作。直売主体で、消費

形態の変化に即応した販売で、新規顧客の獲得に力を入れています。

○秋山 幸公子 氏 (八街市)



露地野菜経営。全量がちばエコ

栽培で、東京・関西での直売を行い、規格外品への付加価値付けにも取り組んでいます。

○古谷 千穂 氏 (八街市)



露地野菜中心の経営。系統出

荷の他に直売も行い、販売先での情報収集による新品目導入も行っています。

○川崎 洋明 氏 (八街市)



露地野菜経営。JAの選果場を

積極的に活用し、労力軽減による規模拡大を図っています。

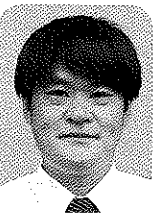
○小林 俊之 氏 (富里市)



施設+露地野菜経営。品目の

絞り込みによって作業を効率化し、大規模経営を可能にしています。

○高山 淳悟 氏 (富里市)



露地野菜経営。特にスイカは、

きめ細かい管理作業と高い技術によって、安定・高品質生産を実現しています。